



多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS)について

多嚢胞性卵巣症候群(以下、PCOSと略)は卵巣に発育途中の卵が多数存在し、月経周期異常などの排卵障害を伴う疾患で、不妊の原因となります。この疾患の原因は、はっきりとわかっていません。

PCOSは脳から出る2種類の女性ホルモン「LH」と「エストロゲン」のバランスが崩れること、また男性ホルモンが高い傾向にあります。これらのホルモンの状態により排卵が正常にいかないと考えられます。ホルモンのバランスを改善することは容易ではないため、何らかの治療を行うことがあります。

肥満傾向(BMI \geq 25)にある場合、まずは食事や運動を改善し、2~6ヶ月かけて5~10%の減量を試みてください。減量によって排卵の改善が期待され、自然排卵する可能性があります。



検査 診断

多嚢胞性卵巣(PCO)とは、超音波検査で小卵胞が10個以上あること(画像1)、ホルモン異常や月経不順、この3つの所見がある場合、PCOSと診断されます。

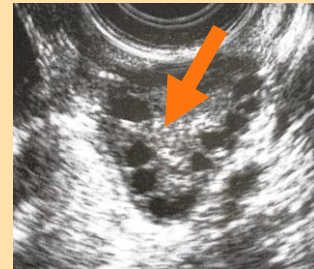
治療

排卵誘発剤を用いて排卵を促すことで不妊の改善につながります。治療の種類としては内服薬と注射薬があり、内服薬で効果の認められない場合には注射薬を用います。

(画像1)

多嚢胞性卵巣症候群の方の
卵巣の超音波画像

卵巣の周りに黒く見えるのが卵胞です。



内服薬

保険:クロミッド、セキノビット
自費:レトロゾール

注射薬

FSHの自己注射や病院での注射
(回数は個人差あり)

外科的治療法として腹腔鏡下にて卵巣にくぼみを作る方法があります。術後の自然排卵率は74%と報告されていますが、再発率が高く、術後1~2年で再発してしまう可能性があるため、最近はあまり行われていません。手術をご希望の方は手術および入院のできる病院をご紹介します。

副作用

排卵誘発剤は一般的な副作用の他に、最も注意しなければいけないのが

多胎と卵巣過剰刺激症候群(OHSS)です。

ヒトは本来排卵に向け、1個のみ発育する仕組みになっていますが、PCOSの方は発育途中の卵が多くあり、それらが薬に反応し、いくつもの卵が発育・排卵します。

=**多胎**の原因



多くの卵が発育することで、女性ホルモンの値が高くなります。この値が高くなり過ぎると、排卵後、腹部に水が溜まったり、卵が多くできることで卵巣が腫れ、腹痛を起こしたり、血流が悪くなったり(血栓)という症状がみられることがあります。このような症状が悪化すると入院が必要となる場合もあります。

=**卵巣過剰刺激症候群(OHSS)**

さらに、腎臓の機能が悪い方では乳酸アシドーシス(血液中に乳酸が増え、血液が酸性に傾く状態)を起こしたり、吐き気や下痢を起こしたりすることが稀にあります。胎児への影響は今のところないと報告されています。

メトホルミンについて

PCOSは糖尿病と関連性があることがわかっています。糖尿病の治療で用いるメトホルミンという薬は、排卵誘発剤と併用することで、**インスリン抵抗性**を改善し、PCOSの排卵誘発に有効であるといわれています。

インスリン抵抗性とは…

食事をするにより上昇した血糖値を下げるホルモンはインスリンのみです。インスリン抵抗性があるとインスリンに抵抗がある(効きにくい)状態になります。そのため血糖値を下げようとインスリンをたくさん出し、血中にインスリンが増えてしまいます。たくさん出たインスリンは男性ホルモンの一種(アンドロゲン)の産生を促すよう卵巣や副腎に働きかけてしまいます。このアンドロゲンの増加が月経異常や排卵障害を引き起こす要因の一つとされています。

副作用 吐き気・嘔吐、下痢・食欲不振、乳酸アシドーシスがあります。

費用 [こちら](#)をクリックしてご確認ください。

ご不明な点がございましたら、医師または看護師にご相談ください。

医療法人社団守巧会 矢内原ウイメンズクリニック
〒247-0056
神奈川県鎌倉市大船1-26-29-4F
TEL:0467-50-0112 FAX:0467-50-0113
<https://www.yanaihara.jp/> Email info@yanaihara.jp